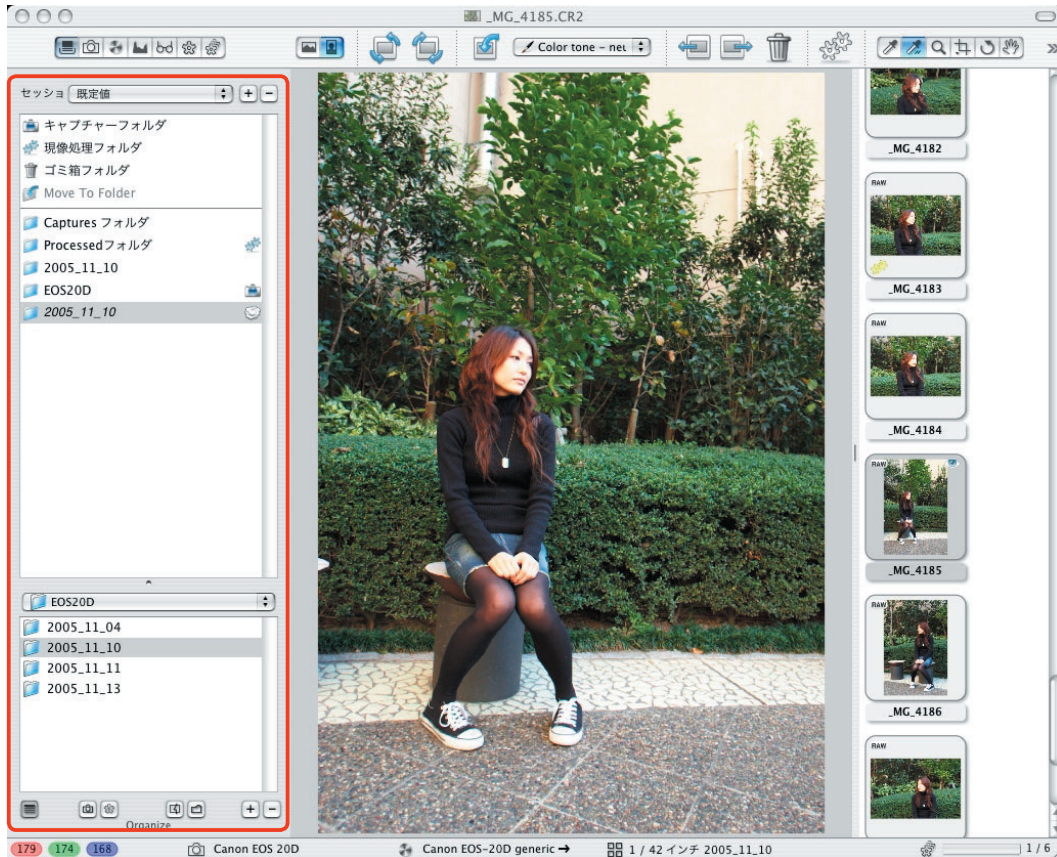


## 7-2 RAW 現像処理の実例②～Capture One

Capture Oneは非常に優れたRAW現像ソフトだ。処理速度が速く、複数の画像に対して同じ設定を施し、連続的に自動処理を施すこともできる。画像の一部だけを調整するといった特別な操作が不要なら、このソフトだけでデジカメ画像を調整できる。まさに「Photoshopいらす」だ。

### C1の画面構成



C1の基本画面 左端にはフォルダ選択画面が表示されている

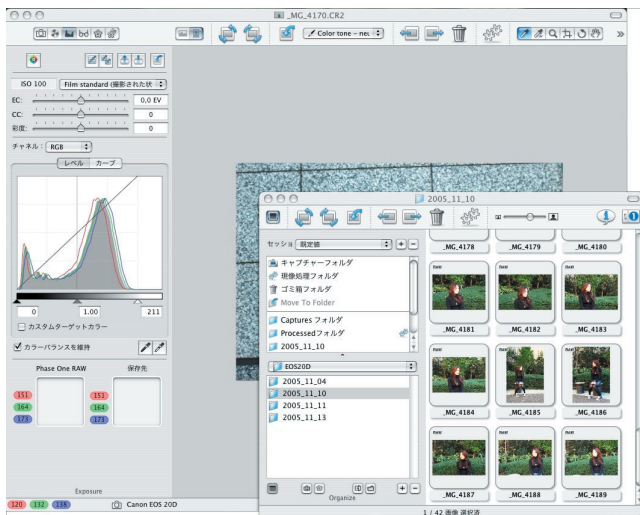
C1の標準的な画面構成は3列の縦割り型となっている。

左列(左図赤枠内)はユーザーの選択に応じて「ファイル選択」「ホワイトバランス」「シャープネス」などの画面に切り替わる。中央はプレビュー画面で、選択した画像の補正結果が表示される。右列には、選択したフォルダ内の画像がサムネイルで表示される(左右の列は入れ替え可能)。

左列でフォルダを選択すると右列にその中の画像がサムネイル表示され、そこから現像したい画像をクリックすると、その画像が中央のプレビューウィンドウに表示される。その後、左列の内容をホワイトバランスやトーンカーブなどに切り替えて細部の調整を施す。

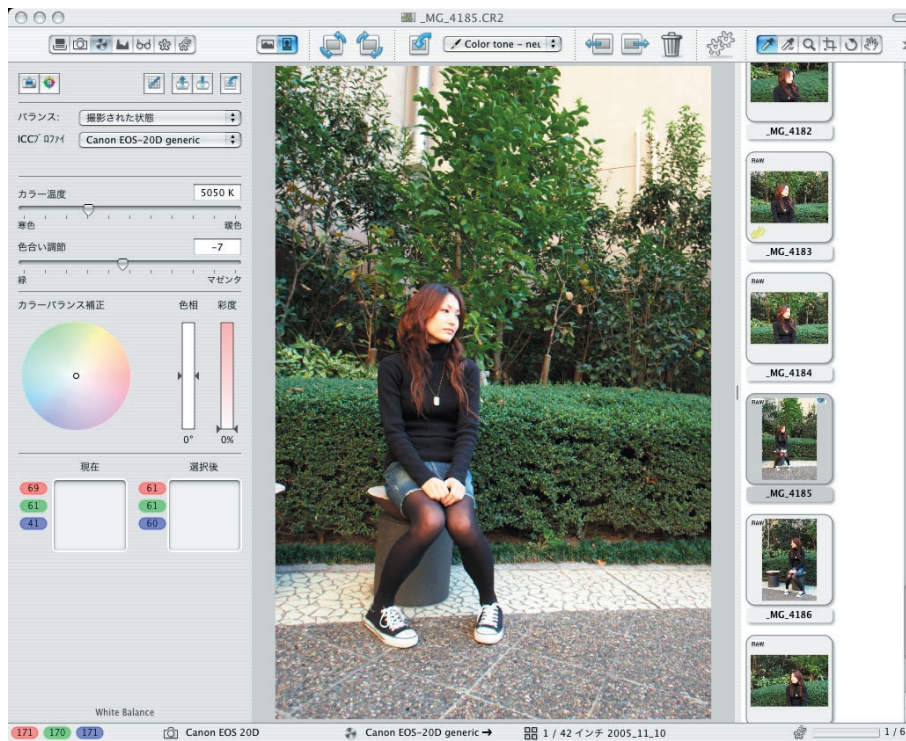
最後に、左列の内容を現像パラメータに切り替え、ファイル形式や解像度を設定して現像する。複数の画像に設定だけを施しておき、あとからまとめて現像処理を実行するバッチ処理も可能だ。

複数の画像をプロジェクトとして管理し、すべてに同じ設定をまとめて施すこともできる。サイズを確認しながらのトリミングも可能で、画像の特定範囲だけを選択して補正する必要さえなければ、Photoshopを使わなくてもC1だけで一通りのことができてしまう。



ファイル選択とサムネイルを別ウィンドウで表示できる

## ホワイトバランスの調整

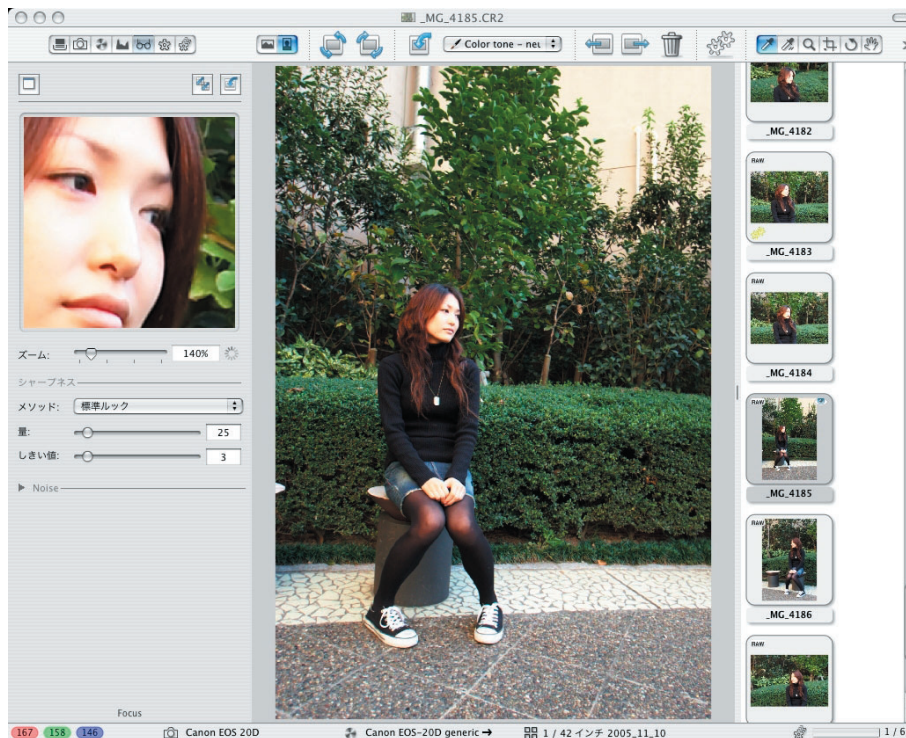


ホワイトバランスの調整画面

「White Balance」の設定画面で、「カラー温度」（色温度）のスライダを動かして調整する。

同じ画面で、カラーバランスの調整もできる。色相環をドラッグするか、「色相」と「彩度」のスライダを上下させる。意味合いとしては画像処理ソフトの色相調整と同じだが、Photoshopの色相調整やカラーバランスより扱いやすい。

## シャープネスの調整

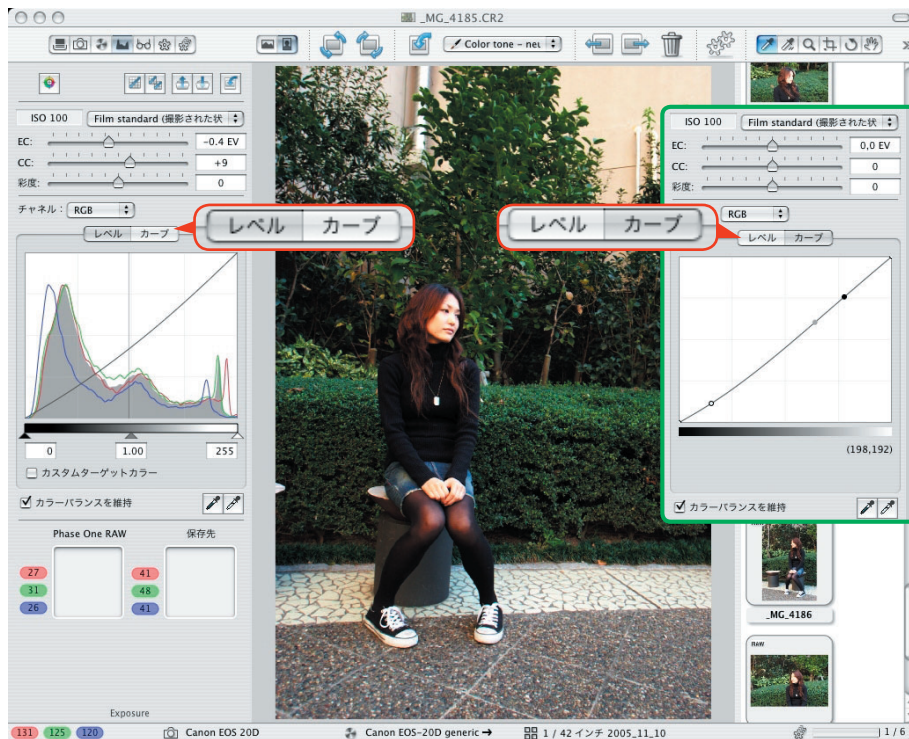


シャープネスの調整画面

「Focus」の設定画面で「量」と「しきい値」のスライダを動かして調整する。画像を拡大表示し、細部を見ながら操作できる。



## 露光量の調整



露光量の調整画面

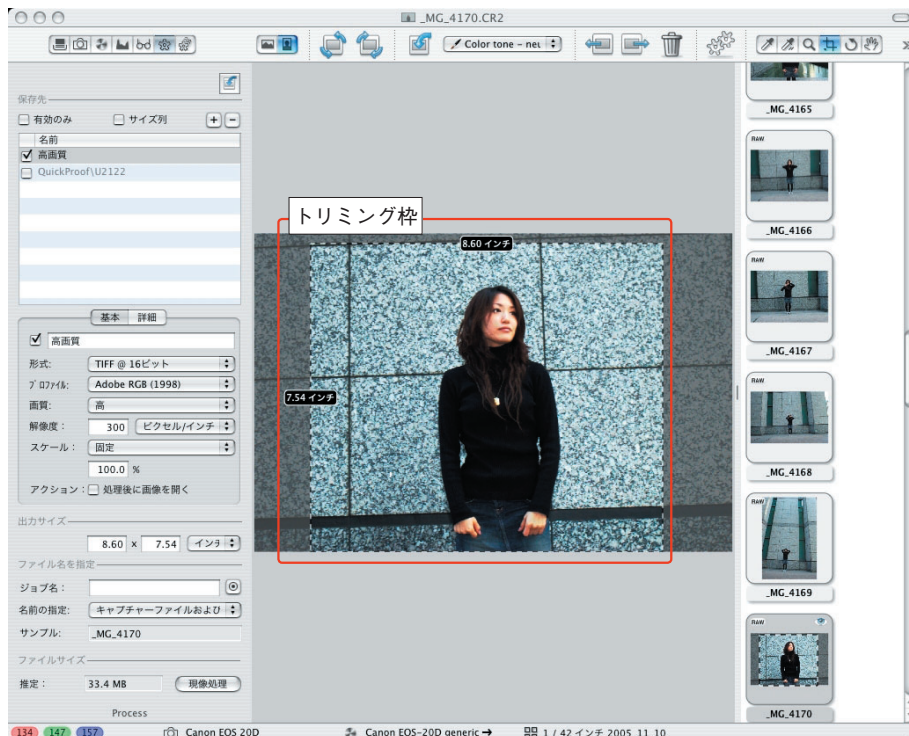
(左はヒストグラム表示、右はトーンカーブ表示に切り替えた画面の一部)

「Exposure」の設定画面で「レベル」ボタンをクリックするとヒストグラムが表示され、「EC」のスライダを動かして露光量を調整できる。

ヒストグラム下部の黒・グレー・白のスライダはPhotoshopのレベル補正と同じで、それぞれ左右に動かしてシャドウ・中間調・ハイライトの位置を決める。スポイトツールを使い、画面上で最暗部（ディープシャドウ）と最明部（ハイエストライト）を指定することも可能だ。

「カーブ」ボタンをクリックするとトーンカーブが表示され、Photoshopのトーンカーブと同じように操作できる。

## トリミング

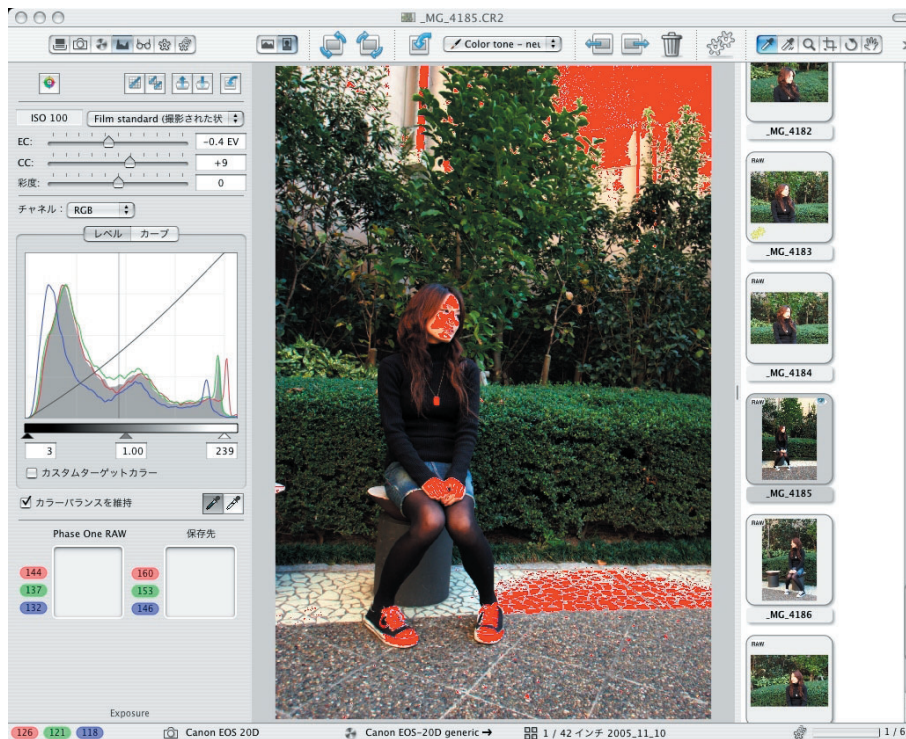


切り取るサイズが枠線に表示されるため操作しやすい

マウスのドラッグでトリミング枠を表示し、画像を切り取れる。枠にトリミングサイズが表示されるため、Photoshopの切り抜きツールより分かりやすい。

ここで表示されるサイズは、現像パラメータの画面で設定した解像度が基準となる。

## 露光過多警告



飽和したハイライトが赤で示される

メニューバーから [ビュー] → [露出警告] を選択して有効にすると、画像内の飽和したハイライト部分（8ビットで255付近の値となる白）が赤で表示される。基本的に、この警告がなくなるようハイライト部を調整する。

「ホワイトバランス（White Balance）」と「露光量（Exposure）」の設定画面で露出警告の表示された部分にマウスを合わせると、下部にR・G・B各要素の数値が表示される。0～255までの8ビットで表されており、最低どれか1つの要素が255付近になっているのが確認できる。

露出警告を非表示にするには、再度メニューバーから [ビュー] → [露出警告] を選択して無効にする。

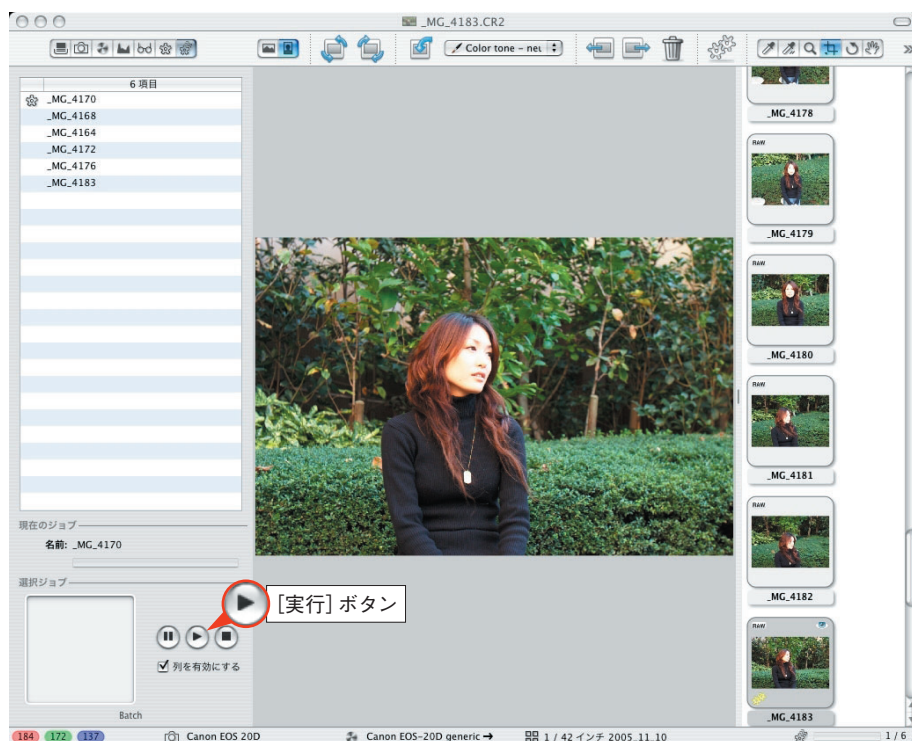
## 現像の実行



画像を1コマ単位で  
現像する

選択した画像のファイル形式、カラープロファイル、解像度、出力サイズなどを設定し、[現像処理] ボタンをクリックすれば、先に設定した内容に基づいて現像処理が行われる。

## バッチ処理



複数の画像をまとめて現像できる

複数の画像に対して上述した設定をすべて済ませた上で「現像処理」ボタンをクリックせず、「Batch」の設定画面でサムネイル画像を左列のリストに次々とドラッグし、最後に▶（「実行」ボタン）をクリックすると、リスト内の画像を連続して現像処理する。

途中で一時停止することもできる。

このようにC1は、範囲選択や画像合成などの特別な処理を行わないのであれば、Photoshopを使うことなくRAW現像で一通りの画像を生成できる。

スタジオで撮影した画像を切り抜いてDTPソフト用に仕上げる場合は別として、展示用プリントを制作する場合には十分すぎるほどの機能である。